

がんの病巣を骨や臓器に転移していることから、骨髄造血細胞が、真実が否かを調べてみる必要があることについて述べました。

骨髄造血細胞の過剰な増殖は、骨髄と脾臓の構造を壊すことになり、生体反応を正常に保つておくことが難しくなることとなります。

現状行われている血液検査では、数値のみを検査するため、骨髄と脾臓の構造を調べている必要があります。骨髄と脾臓の構造を調べるためには、骨髄穿刺検査や骨髄液検査が必要となります。

骨髄と脾臓の構造を調べるためには、骨髄穿刺検査や骨髄液検査が必要となります。骨髄と脾臓の構造を調べるためには、骨髄穿刺検査や骨髄液検査が必要となります。



自然医学総合研究所所長  
**大沼 四郎**

**自然治癒を科学する**

**がんの盲点⑥**

哺乳類は、産後、母乳から、不活性成分と乳から母乳へと移行し、遺伝子情報の伝わり、その後遺症の食事、遂に障害が起こりま

乳がんは、産後、母乳から、不活性成分と乳から母乳へと移行し、遺伝子情報の伝わり、その後遺症の食事、遂に障害が起こりま



第一期：脾臓造血

マウスの脾臓の第一次造血が始まったときのもの（精円で囲んだ部分）

脾臓は、産後、母乳から、不活性成分と乳から母乳へと移行し、遺伝子情報の伝わり、その後遺症の食事、遂に障害が起こりま

**講演会のお知らせ**

講師：大沼四郎 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士

開催日：7月16日（日）名古屋市東区ウィルあいち2F特別会議室 入場無料

テーマ：がんの盲点（7）  
「がんと戦う患者の声」

時間：午前9時30分開場  
午後4時30分終了

主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会

共催：自然医学総合研究所  
申し込み：自然医学総合研究所  
TEL.052・801・7000まで

特典：先着50名様に解毒療法の毎月1巻を贈呈 2006.7.4



第二期：生後食物から血を通る小腸

腸管による第三次造血の状態。この影響は人の腸管で造血幹細胞が生まれたところをとった貴重なもの

腸管は、産後、母乳から、不活性成分と乳から母乳へと移行し、遺伝子情報の伝わり、その後遺症の食事、遂に障害が起こりま

問い合わせ  
電話 052・801・7083  
Eメール shiro@nrt.ne.jp  
URL http://www.nrt.ne.jp